・明るく・温かく・明日に向かって

ＫＪＶＡ

高知県小学生バレーボール連盟
広報委員会通信

Ｎｏ，38

令和7年10月21日

R7 バレ-ボ-ル クリニック（高知県会場）

主催　日本小学生バレーボール連盟
主管　高知県バレーボール協会　高知県小学生バレーボール連盟

秋とは言え、まだまだ残暑の余韻が残り、エアコン・扇風機の必要な１日でしたが、ここ野市総合体育館には、バレーボール大好きな者たちが参集し、指導法や上達のためのスキルを学ぶ、有意義な１日を過ごすことができました。

今回の講師は、高知にはおなじみの森指導普及委員長様と日本小学生バレーボール連盟界のパイオニアでありレジェンドでもある工藤会長という、豪華な顔ぶれでした。

特に工藤会長は、スモールステップ指導の大切さや根性論のバレーボール指導の脱却、小中高の連携の重要さなど、今の小学生バレーの指針を作り、広げてきた立役者でもあります。そして今なお江別中央（小学生）はじめ、全国大会にも出場しているような中高のバレーボールクラブをご指導なさっている先生です。この日も喜寿を迎えているとは思えないような動きと語りで、私たち高知の指導者に、ジュニアバレーボールへの情熱とスムーズにステップアップできる練習方法や指導の仕方を具体的に伝えていただきました。

また森指導普及委員長も、各県を回って得られた情報を加味して、親しみやすい語りと実技を交えた練習で、子どもたちや受講生を楽しませつつ、技量向上にプラスになる研修を行ってくれました。

3000 円という受講料をいただいた講習会ではありましたが、その分しっかりと満足感が残る１日になったと思います。役員一同、開催してよかったという思いで、締めくくることができた研修会でした。皆様、ご協力どうもありがとうございました。

なお、以下に研修を終えての受講生の声を抜粋しています。

参加できなかった方々も、指導力向上の手がかりになればうれしく思います。

〇軸がぶれないサーブ・スパイク（体操棒等を使って矯正）
〇利き手とそうでない手の位置関係を意識したスパイク練習
〇ひじを伸ばしてのオーバーパス
〇レシーブの時に、無駄にひじが曲がる子の矯正方法
〇ジャブステップを入れたすばやいレシーブ移動　等

工藤会長　講演資料

指導者の理念（付録）

私たち小学生バレーボールのミッションは、子どもたちに
　◎バレーボールの楽しさを伝えること
　◎正しいバレーボールを指導すること
そのためには、対象の分析が必要
　◎対象である小学生段階の子どもを心・技・体の三つの側面から
　・体～スキャモンの成長曲線
　・心～マスローの欲求階層説
　・技～パワーよりも巧みさを（競技の分析ともからめて）
　◎対象であるバレーボール競技を自分なりに分析
　・ネット型の競技である
　・ほかのネット型競技との相違点は
　・エキスを子どもたちに与える工夫は
スポーツである以上、競い合って勝つことを目標にすることは間違いではない。しかし、勝つことのみが最終目的ではない。

スポーツの三つの形
　・チャンピオンスポーツ　・生涯スポーツ　・教育的スポーツ
　※私たちがかかわっているのは・教育的スポーツ
　そうすると、スポーツ活動を通して、心身ともに健全な子どもたちを育てることが最終的な目的。
　＊チャンピオンを目指すことでの様々な弊害（今、勝とうとする指導者が多い）
　・体罰、暴力　・オーバーユース　・過度の遠征　・引き抜き
　　まるで、指導者のため？これらがバレーボールを駄目にしているのでは？
　　原点にかえって「子どもファースト」

今、スポーツ指導者に求められているもの
　指導者の人間力。そして、マネジメントスキル
　（技術指導だけでなく経営手腕）
　　特に、コミニュケーションスキル。

指導者として大事なこと
　◎常に学ぶ姿勢
　　指導理論に絶対正論はない！
　　とくに、子どもたちから学ぶ姿勢を！

１２日のクリニックでは大変お世話になりました。
時間が過ぎるのもあっという間で、もっとお伝えしたいことが工藤先生にもあったかと思います。いろいろとお世話になりました。
会長はじめ役員の皆様の温かい心遣いに感謝しております。
ありがとうございました。

日小連指導普及委員長
森　　和夫